

共同閣僚声明

第2回EASエネルギー大臣会合（EMM2）

2008年8月7日、タイ王国バンコク

1. 第2回EASエネルギー閣僚会合（EMM2）が、2008年8月7日にタイ王国バンコクで開催された。H.E.プーンピロム大臣（タイ王国）が議長を、吉川副大臣（日）が共同議長を務めた。この会合には、ASEAN加盟国、オーストラリア、中華人民共和国、インド、大韓民国、日本およびニュージーランドのエネルギー担当閣僚と、ASEAN事務局長が出席した。
2. 我々は、以下の3つのエネルギー分野に関する協力関係の進展に感謝した。①省エネルギー、②エネルギー市場統合、③輸送その他用途向けのバイオ燃料。さらに、この活動に対する強力な支持と、一層の活動発展にコミットした。
3. 我々は、気候変動、エネルギー及び環境に関するシンガポール宣言の採択を認識し、省エネルギー促進、再生可能資源や代替資源を含むクリーンエネルギー活用に関する進行中の協力関係を強化することに合意した。我々は、排出量取引メカニズムの開発と合わせ、低炭素で環境に配慮した技術の活用、研究開発の強化、技術移転の推奨、技術的・資金的支援の提供及びCDMスキームの活用によるシンガポール宣言の具体化に合意した。

現状の石油価格に対する深刻な懸念

4. 我々は、産油国、消費国双方の利益に反する現在の異常な石油価格に対して、深刻な懸念を表明した。急激な油価上昇により、特に資源に乏しい途上国が大きな影響を受けている事実に対して、より一層の配慮が必要である。また世界景気に対して、重大な悪影響を与える恐れがある。産油国と消費国は、世界のエネルギー安全保障と持続可能な経済成性に対して共通の利害を有する。現状の経済課題解決に対する財政及びマクロ経済政策の重要な役割を認識し、自らが所管するエネルギー政策における協力強化の必要性を強調した。さらに石油市場対話の強化と産消両サイドの協力を要請した。また供給余力を広げるために上流及び下流投資増額の必要性と、拡充計画が意

図する J O D I 拡大を通じた市場の透明性改善を強調した。我々は、 I E A、 I E F s、 O P E C 及び I M F といった関連国際機関が協働する、至近の油価高騰の背景にある実需面、資金面の要因分析を歓迎する。各国の関係機関に対し、それぞれの商品先物市場の検証と、必要な場合は適切な処置を要請する。

5. 我々は、緊急時対応能力の拡充、省エネルギー促進及び代替エネルギー開発といった取組を確認した。市場に対して省エネルギー促進と代替エネルギーへの投資増額という適切なメッセージを発信するため、従来型エネルギーへの価格補助金の段階的引下げが望ましいことを認識した。最近、数カ国で実施された、この方向に沿った行動を歓迎し、さらに促進されることを望む。

エネルギー協力ワークストリーム

6. 我々は、①省エネルギー、②エネルギー市場統合及び③輸送用バイオ燃料といった3分野で具体的な取組を進める E C T F（エネルギー協力タスクフォース）の活動を歓迎する。

7. 我々は、E C T F の 3 つのワークストリームが、全ての経済レベルにおける、普及価格で安定した持続可能なエネルギーの確保という当初目標に合致していることを確認した。

省エネルギーワークストリーム

8. 各国が暫定報告した省エネルギー目標と省エネルギー行動計画を歓迎し、2009年の E M M 3 で報告予定の、自主的で、定量的で、可能ならセクター別の省エネ目標と行動計画を期待する。各国が策定する省エネルギー政策の有効性は、産業、発電、民生・商業及び運輸部門といった主要なエネルギー消費セクターに着目し、現状の省エネルギー性能を分析・評価し、省エネルギーポテンシャルの解析と適用可能な技術を特定するといった作業により担保されることを確認した。また上述したセクター別アプローチが、最適技術の特定と移転に有用であり、主要なエネルギー多消費セクターの省エネルギー促進に向けた域内協力の促進に有効であると認識した。

9. 我々は、省エネルギー政策実行に向け、省エネ事例やベストプラクティスの収集・共有を目的としてアジア省エネルギー協力センターで進めている活動を歓迎し、各国がストックテイクの実行とデータベースの定期的更新を継続することを期待する。また、E R I Aによる「E A S エネルギーアウトック」の策定を歓迎する。予想されるエネルギー需要の増大に伴い、より一層の省エネルギー促進の必要性を認識し、E R I A に対してはその分析の充実と、効果的な省エネルギー施策の立案・貢献を要請する。

エネルギー市場統合ワークストリーム

10. 我々は、統合されたエネルギー市場の重要性を再確認した。これにより、エネルギー安全保障と供給多様性を向上させ、エネルギー効率改善と代替エネルギー開発を促進し、エネルギーのコスト競争力を改善することができる。我々は、「E A S 地域におけるエネルギー市場統合」に関する総括レポートを歓迎し、自由化され、競争的なエネルギー市場の可能性と利益へのより良い理解につながるものとして、これを認識する。本レポートは、E A S 地域におけるエネルギー市場統合の現状を分析し、更なる統合の可能性を評価し、一層の統合達成に向けた戦略を提示している。

11. 研究の成果として、一層のエネルギー市場統合は互恵的な貿易を目的とすること、市場統合促進に向けた海外投資に対する透明性ある指針や政策が重要であること、を確認した。

12. 我々は、本研究の重要な勧告がさらに検討され、可能なものを実行に移すべきと決定した。この中には、東アジア地区のエネルギー市場統合を進めるための検討フォーラムの設置などが含まれる。

13. 我々は、E C T F に対して、エネルギー市場統合の検討結果を今後のE A S エネルギー大臣会合に報告するよう要請し、更なる市場統合を進めるための戦略と行動計画の立案を期待している。

輸送用その他向けバイオ燃料ワークストリーム

14. 我々は、持続可能性に配慮しつつ、異常な原油価格におけるエネルギー安全保障確立対策として大きな可能性を持つバイオ燃料への強い期待を再度、確認した。域内の環境面、社会面において持続可能なバイオ燃料の生産と利用に関する、「アジアバイオマスエネルギー原則」を採択した。品質管理、生物多様性への配慮、食料生産との競合排除、環境側面への配慮、供給安定性及びコスト競争力など広範に検討した本原則を高く評価した。我々は、国際的な論争や活動を考慮しつつ、本原則に則してバイオ燃料の生産・使用と、域内協力を拡大することに合意した。「E A S - E R I A B D F 規格 (E E B S)」を、関連する各国の国内規格作成の有用な参考値として、歓迎する。

15. 我々は、フィリピンがアジアバイオマスエネルギー協力推進オフィスと協働して構築した、バイオマスデータベースを高く評価した。アジアバイオマスエネルギー研究コアによる、アジアバイオマス研究者招聘プログラムの立上げを歓迎した。

16. タイのイニシアティブで2008年6月18-19日に開催されたバイオフェューエルに関するE A Sのワークショップを歓迎した。本ワークショップの議事録を記録にとどめ、輸送その他に関連するワークストリームに対しこの議事録を活用するよう、促した。

エネルギー・環境関連事項

17. 相互に関連する、気候変動、エネルギー安全保障及びその他の環境や健康に関する課題として首脳会議で特定された懸案事項に対し、効果的なアプローチの必要性を再度、確認した。E C T Fに対して、必要な場合は3ワークストリームの協働も含め、この件に関し密接な協力関係の構築を強く要請した。

国際協力の重要性

18. 我々は、進行中の3つのワークストリーム、①省エネルギー、②バイオ燃料及び③エネルギー市場統合が、高騰する油価や気候変動の軽減など、直面するエネルギー安全保障面の課題、に密接に関係していることを強調

し、その進捗と一層の成果を期待する。

19. 我々は、省エネルギー、バイオマス、クリーンコール利用に関する、クリーンエネルギーと持続可能な成長に関する日本の協力イニシアティブを高く評価し、更なる協力拡大への期待を表明した。このイニシアティブには、研修生受入、専門家派遣、地域協力センター設立等が含まれる。

20. E R I Aの正式発足を歓迎し、E A Sの目標達成に対する彼らの貢献を期待する。E R I Aに対し、研究活動を継続し、各国の政策立案への貴重なインプットを提供することを奨励した。

その他

21. 我々は、タイ王国の国民と政府がこの会合へ寄せてくれた、配慮とホスピタリティを感謝した。

22. 我々は、明年ミャンマーでの EMM3 開催に合意した。